

令和5年度第1回宮城県周産期医療協議会議事録（決定稿）

■日 時：令和5年9月1日（金）午後6時から午後7時30分まで

■場 所：宮城県行政庁舎11階 第二会議室

■出席委員：10名（齋藤昌利委員、鈴木久也委員、埴田卓志委員、吉田祐司委員、武山陽一委員、  
松本大樹委員、渡邊達也委員、大槻健郎委員、谷川原真吾委員、大平貴子委員）

※内WEB出席・・・松本大樹委員、大槻健郎委員、谷川原真吾委員

■開会

- 進行より、開会の宣告、定足数の報告及び傍聴の留意事項の説明等。
- 医療政策課長挨拶
- 進行より、新任委員の紹介、WEB出席の諸注意等。

■議事1 会長及び副会長の選任について

- 会長：齋藤委員、副会長：鈴木委員に決定。
- 齋藤会長挨拶

■議事2 第8次宮城県地域医療計画について

①第8次宮城県地域医療計画について【資料1～3】

【概要】

- 第8次宮城県地域医療計画全体の概要や構成、策定スケジュールについて説明し、意見を伺った。

【事務局説明】

- 第8次計画期間は、令和6年度から令和11年度までの6年間となる。
- 第8次計画から、「医師確保計画」等についても内包化されることとなっている。
- 本協議会において専門的な見地から助言をいただいた上で、最終的に宮城県医療審議会計画部会（以下、計画部会）にお諮りする。
- 今後のスケジュールについて、第1回協議会や第2回計画部会でいただいた御意見等を反映し、第3回計画部会で一度中間案を提示した後、第2回協議会での提示を考えている。
- 最終的には、来年2月の第4回計画部会を経て、令和6年度より施行、公示というスケジュールになっている。

【委員意見等】

- 特になし。

②第8次宮城県地域医療計画（周産期医療）について【資料4～8】

【概要】

- 第8次宮城県地域医療計画（周産期医療）の国方針や素案の内容について説明し、意見を伺った。

#### 【事務局説明】

- 資料4のとおり、国が示す第8次計画における周産期医療のポイントは大きく4点示されている。
- 資料5のうち、赤字部分が今回の第8次計画で新たに示された指標となっており、把握していない指標については、今年度の周産期医療機能調査により把握した後、委員にも共有させていただく。
- 資料6のとおり、第7次計画から構成案を改定し、項目の整理等を行っている。
- 資料8の第8次計画の素案の内容について、資料7に主なポイントや変更点をまとめており、こちらを用いて説明させていただく。

#### 【委員意見等】

- 資料7の助産師のタスクシフトに係る部分で、助産師との役割分担や連携により、勤務環境の改善に努める旨、施策の方向に記載されている。また、資料5のストラクチャーを見ると、院内助産や助産師外来を行っている周産期母子医療センター数を求められている。全国的に院内助産が進んでおり、昨年10月の段階で、全国でやっていないのが13県となっており、宮城県もその内の一つである。今後県からも後押しをしていただいた方が進みやすいと思うため、施策の方向性の部分に院内助産・助産師外来の推進という文言を追加していただきたい。また、勤務環境の改善等について、資料4の産科区域の特定についても、特に産科混合病棟で進めることが望ましいということが成育基本法でも言われているため、その辺りも文言として盛り込んでもらえるとありがたい。(大平委員)
- 1点目の院内助産等について、状況を踏まえながら、記載の部分を検討してまいりたい。2点目の産科区域の特定についても、御意見を踏まえて検討させていただければと思う。(事務局)
- 院内助産がどのように定義されているのか聞きたい。いわゆる助産院のようなものが院内にあるイメージがどうしても付いてしまうが、分娩の進行の大半を助産師が見て最後の分娩の直前に医師が呼ばれてお産に立ち会うものを院内助産として取り扱うのか、医者がいないものだけを院内助産とするのか、その辺りの考え方で数は変わってくるのではないかと思うがいかがだろうか。(谷川原委員)
- かつて院内助産システムを看護協会が進めた時に、助産師だけで分娩を介助して医師が入らないものがモデル事業として挙がっていたため、どうしてもそのようなイメージを先生方も私達も持っている。しかし、現段階で院内助産とは、妊娠期から産後一か月までを妊産婦のその家族の意向を尊重しながら関わっていくということで、分娩を助産師だけでやるとは一言も書いていない。そのため、今現場でやっていることが恐らくどの施設も院内助産になると思うが、それを標榜していないことが課題となっている。今後先生方とどのような場合までは助産師が責任を持って判断を行い、先生に報告するかなど、きちんと明文化した上で運用していくことが課題となっていて、そこが上手くまだ進んでいない状況になっている。(大平委員)
- お産をする側の妊婦や家族にとって、院内助産の言葉のイメージがつかみにくいことが非常に大きな問題であると思う。そのあたりしっかりと広報していくことや、社会で受け入れてもらえるように伝えていくことが大事であると思うため、県などで進めることが大事ではないかと思う。(谷川原委員)
- これはあくまで個人的な意見だが、本協議会で院内助産の定義は中々難しいと思う。コンセプトとして、働き方改革のスタートにより、医師のマンパワーの確保が一つの命題となっている中で、タスクシフティングができることが一つのキーワードとなる。そのため、助産師が働いた上で、そのようなシステムがある場合には、院内助産が運用されているというような考え方でいいのではないかと思う。各

論的にそれぞれ細かいところはあると思うが、県全体として新しい時代に向かってどのように対応しているのかを考えた時に、このような動きがあるということは、一つのメッセージになると思うため、その辺りの文言や方向性を施策に少し盛り込んでいただければと思う。(齋藤先生)

○ 今先生方からお話しいただいたところを踏まえまして、対応のやり方を色々御相談させていただきたいと思う。また、計画の記載については、その辺り文言を書き足してまいりたいと思う。(事務局)

○ 資料5の療養養育支援の部分で、在宅ケアを行うための病床を設置している周産期母子医療センター数を、目標を作って毎年調査することに恐らくなると思うが、実際内容に軽い重いがある。そのため、センター数を調べるのは良いが、例えば気管切開が何人か、呼吸器が何人かなどそういう部分まで調べていただくと数だけでなく中身の把握が出来るのではないかと思ったため、御検討いただければと思う。(渡邊委員)

○ 調査の項目の整理の仕方からだと考えており、具体の検討の中で御相談の場面も生じてくると思うため、よろしく願いたい。(事務局)

○ 医療的ケア児の対応について、長期入院慢性期になった方の転院に関連し、先日仙台エコー医療療育センターに伺い、現状を確認した。ここは医療と福祉が一緒にできる場所であるが、重度の身体障害や知的障害を持っている方が入院しており、120床が常に満床状態であった。また、職員の数も多いため、駐車場がほぼ満車状態であり、それだけ手がかかるといった状況であった。このような施設が周産期医療の先にあることは間違いないため、このような施設を今後充実させていかなければならないと非常に感じた。そういう面では、県からも公的な援助をさらにいただければと思う。(鈴木委員)

○ 今の鈴木委員の御発言に関連して、資料7の11ページの部分、在宅ケアへの移行支援に係る記載で、NICU施設から在宅に円滑に移行するため、施策の方向に中間施設となる地域療育支援施設の運営という記載があるが、この施設とはどのような施設を念頭に置かれているのか。(埴田委員)

○ 一度在宅に入る前に、それまでの援助等を行う施設を想定している。なお、今回国の指針の中でより具体化されており、様々な方針も増えているため、今後御意見等を踏まえた上でこの計画について再度考えていきたいと思う。(事務局)

○ 宮城県内に中核となるような中間施設がないことが現状の課題であると個人的に感じているため、県や市から支援がいただければいいのかなと思っている。(埴田委員)

○ 先ほど事務局からの説明で、助産師の地域偏在という話があった。おそらく数年前のこの協議会で渡邊委員から小児科の先生方の数の把握も必要であるということで、今回小児科の先生方の数は少しずつ増えているというグラフが示されているが、可能であれば助産師の数や地域の偏在がある程度見えるようになると、問題が浮き彫りになって対策を考えるきっかけになるのではないかと考えている。特に仙台医療圏外の病院において、助産師の確保は非常に大きな問題になっており、医師の確保と同列で進めなくてはいけない問題だと思うので、常勤や非常勤なのかといった違いはあると思うが、その辺の見える化のためにグラフがあれば、どの程度のタスクシフティングが可能になるのか、この程度までは進めていこうということにもつながるのではないかと思う。(齋藤先生)

○ 各医療機関から御回答いただいている調査項目の中に、助産師の数の部分もありましたので、その部分が見える化につながると思う。また、先生方からお話が合った地域ごとの課題について、政策医療分野ごとと合わせて、地域ごとの課題整理を行っている。地域の病院にも照会しているが、気仙沼をはじめ、助産師の不足で体制の維持が難しいといった御意見も上がっていたので、見える化の部分につい

て、工夫したい。(事務局)

○ 全国的な問題として医師の働き方改革、宮城県の課題として出生率の低さなどの問題があり、ある程度浮き彫りになってきている中で、それに対する施策がしっかりと盛り込まれた非常に良い計画案だなど思っている。各委員からあった御意見等を上手に盛り込んでいただければ幸いかな思う。(齋藤先生)

【閉会】